【地域教育実践報告】

2021年における城西大学経営学部石井ゼミナールの活動

荒剛史*・大沢翼*・小澤利也*・石井龍太**

キーワード：ローカルヒーロー、アクティブラーニング

１．はじめに

世界を席巻したコロナ禍は、2020、21年度の大学教育全般にも多大な影響を及ぼした。殊に学外での活動を重視するアクティブラーニング型式の授業運営に及んだ影響は大きかったと言えるだろう。多くの大学において大慌てで導入されたオンライン授業は、教室内においてはある程度定着し、教員にも学生にも経験値が蓄積されて新しい教育の形の一つとなりつつある。一方で、千差万別な授業型式に一律に当てはめるのは困難であり、実技を重視する授業を中心に異なる工夫が必要となった。

地域キャラクターコンテンツの一つである「ローカルヒーロー」を研究・実践する活動を続けてきた経営学部石井ゼミナールにとっても、ここ２年は試練の期間であった。地域の祭事を主な活動の場とし、学生たちが汗を流し、知恵を絞り、団体行動しながら地域貢献を積み上げる教育実践であったが故、そもそも地域の祭事がことごとく不実施となり、学生も大学に来られない状況は苦しいものであった。衛生啓発活動やオンラインでの配信ショー等、キャラクターコンテンツがいかなる状況下でも社会貢献できることを示す試みを続けたものの、多くのゼミ生達が期待した活動内容とは言えなかっただろう。何週間、何か月もかけて苦労して作り上げたキャラクターが、ストーリーが、活劇が、会場を埋め尽くす地域の方々の声援を受けるという祭空間こそ、石井ゼミにとって最もスタンダードな教室なのである。

本稿では、大学教育界全体を見回しても稀な内容である石井ゼミの活動が、コロナ禍でどの様に展開し、学生たちがそこから何を学び取ったのかを記録するものである。具体的には、「第５波」と呼ばれるコロナ禍の流行が広がった2021年夏から、少しずつ小康状態となった2021年冬までに行われた活動から３つを選び、実際にその場において苦労した学生たちの記録をまとめた。拙く不十分な内容ではあるが、今後の教育活動に少しでも資するものになると考える。なお具体的な分担は以下の通りである。

１．はじめに　石井龍太
２－１．第一回毛呂山町ビジネスコンテスト　小澤利也
２－２．ローカルヒーローステージショー　大沢翼
２－３．坂戸イルミネーション点灯式　荒剛史

＊　城西大学経営学部４年生
＊＊　城西大学経営学部准教授

２．活動内容

２－１．第１回毛呂山町ビジネスコンテスト（2021年８月24日）

2021年８月24日城西大学の清光ホールにて第１回毛呂山町ビジネスコンテスト一次審査が行われた。

主催は、毛呂山町役場内のまちづくり会社の「もろやま創成舎」である。実は若者が多い毛呂山町だが大学などを卒業してしまうとなかなか住んでもらう事ができない悩みがあり、このビジネスコンテストでは、若者が使いたい、働きたいと思えるビジネスを毛呂山町につくり未来を変えていく事が目的になっている。専門の審査員に加え、若者にオンライン審査員として加わってもらい、会場では５つのビジネスプランがプレゼンされた。

我々石井ゼミにビジネスコンテストへの協力依頼が届き、会場運営に参加する事が決まった。ゼミではローカルヒーローの研究を行い、地域貢献を目的にしている。コンテストの進行と共に怪人軍団が会場を乗っ取るが、最後にはローカルヒーロー達による奪還劇が行われるという、少し変わったビジネスコンテストになった。

上手く行った点は、コンテストの進行の妨げにならないよう、また殺陣や裏方の機材トラブルがないように、リハーサルを入念に行い、ミスなく終われたことが挙げられる。ヒーローショーの部分では司会の方を怪人が鎖で拘束し、そのままコンテストを進行させるのだが、司会の方を最初に拘束した時は会場の方から笑顔が見え、真面目なコンテストの中に少し遊び心が入り楽しんでもらえた。

苦労した点は、３年生と４年生が集まった事でかなりの人数がいたため、最初の方はまとまるのに時間が掛かった点が挙げられる。リハーサルでは時間が取られた上、更に機材トラブルも多い状況であったため、本番が不安になり苦労した。

学生として成長できた点は、イベントを通じて地域や自分の知らなかった新しい事に触れられたこと、

1

2

3

図２．１　ビジネスコンテストの様子
１．ポスター
２．会場入り口前に立つ怪人「ミーズム」のマネキン（城西大学広報課撮影）
３．怪人軍団と戦うヒーローたち

貴重なプレゼンを聞けたことが挙げられる。発表者全員から熱意が伝わり、真剣に取り組む大切さを間近で見させてもらった。大人の方から間接的にアドバイスをもらった気持ちになり、何事にも真剣に取り組む姿勢を大切にしていきたいと思う。

２－２．ローカルヒーローステージショー（2021年11月６日）

北坂戸にぎわいサロンで、11月６日に行ったローカルヒーローステージショーについてまとめていく。

我ら石井ゼミナールでは、新しい地域振興と福祉活動として注目を浴びるローカルヒーローを調査研究し、それらを通して地域と触れ合う活動を行っている。今回は北坂戸駅前にある城西大学窓口の北坂戸にぎわいサロンで、ステージショーを行った。石井ゼミナールからは、４年生が企画実行する「リジェネイダーJ」と、３年生が企画実行する「レベルJ」が参加。さらにゲストヒーローとして、坂戸市のヒーロー「エスクローリー」と、日本工業大学の「NITマンMECRIA」がコラボ参加してくれた（図２．２－１）。

1

2

3

図２．２　ローカルヒーローステージショー
１．登場ヒーローの集合写真
２．北坂戸にぎわいサロンの入口と受付
３．ステージショーの様子

受付も全体で行い、日本工業大学のヒーローNITマンMECRIAはじめ、交代で様々なヒーロー達が来場者を歓迎した（図２．２－２）。ステージショーでは、リジェネイダーJの第７話とレベルJの第１話が行われ、合間にゲストヒーローのエスクローリーとNITマンMECRIAのゲーム大会が行われた（図２．２－３）。多くの人が来場し、ステージショーを見ていってくれた。子供たちの声援は、まだ耳に新しい。ショーの後には写真撮影会が行われ、来場者の多くがヒーローたちとの写真を撮っていった。演者も観客も熱を感じさせ、総じて大盛り上がりのイベントとなったと言える。

上手く行った点として、やはりとても多くの人が来場し、盛大に盛り上がってくれたことが挙げられる。来場者数は用意した座席がほとんど埋まるほどであり、老若男女問わず見に来てくれていた。来場者にはヒーロー応援グッズを配布し、ステージショー中には多くの声援がヒーローたちを鼓舞した。ゲストヒーロー主導のゲーム大会も、観客席にいる子供たちの歓声が響くほどで、とても大成功だったと言える。

その反対に苦労した点は、多くの来場者が来たが

故の重圧と、ゲストヒーローとのコラボレーションの緊張が相まって、過去最高に意識を尖らせるものとなったことだ。ステージショーの演技中に足元を取られてしまったり、ヒーローとヴィランの殺陣の大立ち回りでは、身体が固まってしまったりと予想外のことが起こってしまった。

最後に、学生として成長できた点として、地域との触れ合いによる理解や、大勢の人の前で物事を成す達成感、チーム一丸となって一つのイベントを企画、実行、完成させることによる一体感を得られたことが挙げられる。こういったことを学生時代に経験でき、それを自身の糧にすることは得難いことであるし、それらを吸収し成長できたことは何より喜ぶべきことだ。

２－３．坂戸イルミネーション点灯式（2021年12月５日）

坂戸駅前サンロード商店街で、12月５日に参加させていただいた「坂戸イルミネーション点灯式」についてまとめる。参加した４年生は「リジェネイダーJ」の最終話を披露した（図２．３－１）。ゼミで用意した応援グッズもあり、多くの声援が送られた。

最終話というのもあり、今までのヒーローショーを観に来てくれた子など多くの方が12月の夜にも関わらず足を運んでくださり、ステージショーとイルミネーションを観覧して下さった。ヒーローショー後の撮影会でも幅広い年齢層の方と撮っていき（図２．３－２）、大盛り上がりのイベントを行えた。

上手くいった点は、坂戸近辺で活動をしていたことや坂戸駅前でのヒーローショーというのもあり、今まで石井ゼミのヒーローショーを見に来たことがある方や気になって見に来てくれる方など多くの方が参加してくれたことで大盛り上がりのままイルミネーション点灯式の式典に移れたことである。

反省点と苦労した点は、ヒーローショーで使わせてもらった会場のステージの確認や入退場する控え室の移動、夜行ったイベントというのもあり足場をよく確認することができなかった為に本番中定められた範囲から出てしまうことなど準備不足からのミスが見られたことである。

学生として成長できた点は、石井ゼミナールの目標としている「地域振興」を肌に感じ、チームとして動く楽しさを知ることできたことである。イベントを運営してくださった方々や来場してくれた地域の皆様との関わりから、普段感じることができない多くの体験をし、チームとして何か１つのことを完成させていく達成感を大学生活最後の年で経験することができ、自分自身の成長や自信に繋げることができた。

1

2

図２．３　坂戸イルミネーション点灯式
１．ステージショーの様子
２．ステージ終了後の集合写真